

平成27年度 自己点検・評価に係る報告書

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成27年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署	
I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置							
1. 教育に関する事項	(1) 入学者の確保	<p>①入学者(入学志願者)の確保と入学志願者の学力水準の維持・向上を図るため、種々の手段により中学校長や中学校PTAなどの組織への広報活動を行うとともに、外部メディアの活用を含む広範な広報活動を展開する。</p> <p>①入学者(入学志願者)の確保と入学志願者の学力水準の維持・向上を図るため、種々の手段により、地域社会への積極的な広報活動を展開する。</p> <p>○広報活動を対象とする地域を可能な限り広域化し、県内外の中学校をはじめ、学習塾に対する広報活動も継続する。</p> <p>○鳥取県内の校長に対する学校説明会及び近隣地区の中学校校長会に参加し、校長から高専のPRをする。</p> <p>○中学校関係者をはじめ学習塾の関係者を招いた入試説明会を実施する。</p> <p>○入学生アンケートの結果を基に入試広報資料の有効性を検証し、改善する。</p> <p>○本科3、4、5年生に対して専攻科のPRを実施する。</p> <p>○専攻科のホームページの充実を図る。</p> <p>○専攻科のパンフレットの充実を図る。</p> <p>○専攻科の掲示板の充実を図る。</p> <p>○広報室を通じて、情報の一元化を図るとともに、広報業務の一層の充実と効率化を図る。</p> <p>○広報対象とする地域に有効な広報策を検討し、外部メディアの活用も含む広範な広報活動を実施する。</p> <p>○広報室を中心として、ホームページや広報資料の内容・在り方を見直す。</p> <p>○校外向けホームページのリニューアルを行い、その充実を図るとともに、随時内容を更新する。</p>	<p>○広報活動を対象とする地域を可能な限り広域化し、県内外の中学校をはじめ、学習塾に対する広報活動も継続した。特に東部の中学校数校で新しく入試説明会に参入した(6～11月実施済)。</p> <p>○鳥取県内の校長に対する学校説明会及び近隣地区の中学校校長会に参加し、校長から高専のPRをした(5月実施済)。</p> <p>○中学校関係者をはじめ学習塾の関係者を招いた入試説明会を実施した(9～10月実施済)。</p> <p>○入学生アンケートの結果を基に入試広報資料の有効性を検証した(2月実施済)。</p> <p>○4、5年生に対しては保護者懇談会で専攻科パンフレットを配布しPRした(7月実施済)。</p> <p>○4年生の希望者に対しては12月以降学科別に専攻科のPRを実施した(1月実施済)。</p> <p>○本科3年生に対しては 学年合同HRで専攻科の説明を1月28日に実施した(1月実施済)。</p> <p>○専攻科のホームページの情報の更新を行った(随時実施)。</p> <p>○専攻科パンフレットを改訂した(1月実施済)。</p> <p>○専攻科掲示板への専攻科関連情報を掲載した(随時実施)。</p> <p>○各部署、学科・科で構成する広報室の打ち合わせ及びメール会議において、情報の一元化、業務の充実と効率化を図った(随時実施)。</p> <p>○地元ケーブルテレビネットワークの鳥取県民チャンネルにおいて、「米子高専知的セミナー」を放送し、本校の知的資源を還元するとともに、高等教育機関としての本校のPRに繋げた(4月～毎月更新中)。</p> <p>○昨年度より、本校の校外向けホームページについて広報室を中心として検討し、デザインの統一やコンテンツの見直しを行って、7月から新ホームページを公開した。また、適宜コンテンツの追加などを行って、ホームページの整備を進めた(随時実施)。</p> <p>○本校創立50周年記念の写真パネルを、図書館(交流プラザ)に展示し内外に広報した(4月～実施中)。</p> <p>○本校関係者の出版物のリストをまとめ、公開可能な出版物を同様に展示した(5月～実施中)。</p> <p>○上述のように校外向けホームページを一新し、広報の一層の充実を図った。教職員向けの操作説明会を開催するとともに、運用・管理規程を作成し、各部署等で適時情報発信する体制を整えた(6月実施済)。</p>			達成した	教務部 専攻科 広報室
	②入試説明会、オープンキャンパス等の広報活動を充実させ、入学志願者の確保と学力水準の維持・向上を図る。特に女子学生の志願者確保に向けた取組を推進する。	<p>②入試説明会やオープンキャンパスを充実させる。</p> <p>○毎年オープンキャンパスを実施するとともに、開催方法も含めて検討する。</p> <p>○個別の訪問見学を受け付ける。</p> <p>○中学校関係者をはじめ学習塾の関係者を招いた入試説明会を実施する。</p> <p>○機構で作成する女子中学生向けパンフレット等を活用し、女子中学生に対し高専をPRする。</p>	<p>○二日間わたってオープンキャンパスを実施し、これまでで最大の約570名の参加者があった(8月実施済)。また今後も8月に二日間開催するという方針を決定した。</p> <p>○オープンキャンパスに参加できなかった中学生をはじめとして、個別の訪問見学を受け付けた(主に9月～11月を中心に実施。現在も継続中)。</p> <p>○中学校関係者をはじめ学習塾の関係者を招いた入試説明会を実施した(9～10月実施済)。</p> <p>○機構で作成する女子中学生向けパンフレット等を活用し、オープンキャンパス等で女子中学生に対し高専のPRを継続中である。</p>			達成した	教務部
	③中学生やその保護者を対象とする広報資料を充実する。入学者(入学志願者)の確保と入学志願者の学力水準の維持・向上を図るため、外部メディアの活用を含む広範な広報活動を展開する。ホームページの充実を図る。	<p>③中学生やその保護者を対象とする広報資料を充実し、広範な広報活動を展開する。</p> <p>○広報室と連動して本科入学生のためのホームページやパンフレットの充実を図る。</p> <p>○広報室と連携して専攻科の魅力を発信するためにホームページやパンフレットの充実をはかる。</p> <p>○機構で作成するパンフレット等を活用し、広報活動を展開する。</p>	<p>○校外向けホームページを一新し、中学生への訴求を意識してキャンパスライフのページを拡充するなど、広報の充実を図った(7月実施済)。また、適宜コンテンツの追加などを行って、ホームページの整備を進めた(随時実施)。</p> <p>○年度末に向けて広報室と連携して引き続き本科入学生のためのパンフレットやホームページの充実を図る。</p> <p>○専攻科についても、各学科・教養教育科とともにホームページのリニューアル(共通フォーマットの設定)を行った。</p> <p>○専攻科のホームページのトピックス欄に随時項目を追加して、ホームページの内容の充実を図った(随時実施)。</p> <p>○オープンキャンパスをはじめとして、機構で作成するパンフレット等を活用し、広報活動を展開した(中学校の説明会では6～11月、オープンキャンパスでは8月実施。その他はその都度実施)。</p> <p>○機構が作成した英文パンフレットを、本校ホームページの英語版案内のページに、本校の英文パンフレットとともに掲載した(7月実施済)。また、女子中学生向け高専案内冊子の米子高専版を昨年度制作し、今年度、学校説明会などで配布・活用した(随時実施)。</p>			達成した。	教務部 専攻科 広報室
	④ものづくりに関心と適性を有する人材を的確に選抜できるように適切な入試を実施する。	<p>④ものづくりに関心と適性を有する人材を的確に選抜できるように適切な入試を実施する。</p> <p>○入学生の募集に当たり、中学生、保護者に対し本校のアドミッションポリシー、教育目標を募集要項などを通じて適切に伝える。</p> <p>○マークシート方式が採用される本科学力試験について、手順を十分に検討しミスが発生しないように努める。</p> <p>○編入学試験や専攻科学力入試の英語試験問題について外国人によるピアレビューを実施する。</p>	<p>○入試説明会、募集要項、ホームページ等により入学生の募集に当たり、中学生、保護者に対し本校のアドミッションポリシー、教育目標を適切に伝えた(6～11月実施済)。</p> <p>○入試のマークシート方式への変更のため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスにおいてマークシート模擬試験を中学生に受けさせ、試験実施の問題点を明らかにした(8月実施済)。 ・マークシート予備問題を準備した(11月)。 <p>○編入学試験や専攻科学力入試における外国語試験問題について外国人によるピアレビューを実施した(9月、11月実施済)。</p>			達成した	教務部 専攻科
・H24年度からの入試選抜(25年度入試)方法改定に伴う影響を把握するため、内申点・入試成績と1年学年末成績との相関を検討し、改訂の影響や入学者学力レベル向上につなげるべく調査を継続している。その結果、選抜方法改定に関して入試成績と入学後の成績との相関は向上して、両者の間には相関係数R=0.45程度が保たれている。							

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成27年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
<p>⑤ 入学者の学力水準の維持に努めるとともに、女子中学生を含めて、入学志願者数の確保に努める。 寄宿舎に関する中・長期計画の策定を基に計画的な整備を推進し、必要に応じて予算要求を行う。</p>	<p>⑤ 入学者の学力水準の維持に努めるとともに、女子中学生を含めて、入学志願者数の確保に努める。 ○物質工学科、建築学科以外の学科への女子学生の入学を推進する方法について検討する。 ○前年までの調査をもとに学生居室の配置計画を行い、これに伴う改修案を策定する。</p>	<p>○物質工学科、建築学科以外の学科への女子学生の入学を推進する方法について検討し、機械工学科では志願者増のため独自のパンフレットを作成した(4月実施済)。 ○学生居室の配置計画を検討し、南寮の製図室を居室化(3室増)する改修を行った(10月実施済)。</p>			達成した	教務部 事務部
<p>(2) 教育課程の編成等</p> <p>①-1 15才人口の減少傾向や地域の実情に合わせて学科構成を見直すとともに、専攻科の整備・充実を行う。 ○昨年度の教育懇談会打合せ結果を基に、H27年度は将来構想委員会を設置し15才人口の減少傾向や産業界のニーズ動向、また地域の実情に合わせて学科構成を見直すとともに、専攻科の整備・充実を検討する。</p>	<p>①-1 15才人口の減少傾向や地域の実情に合わせて学科構成を見直すとともに、専攻科の整備・充実を行う。 ○昨年度の教育懇談会打合せ結果を基に、H27年度は将来構想委員会を設置し15才人口の減少傾向や産業界のニーズ動向、また地域の実情に合わせて学科構成を見直すとともに、専攻科の整備・充実を検討する。 ○産業界のニーズ・動向に合わせ、高専機構本部の動きと連動して、本科や専攻科の改組を検討する。</p>	<p>○年度当初より運営会議メンバーによるビジョンW.G.を立ち上げ、5~10年後の将来ビジョンを検討・審議し、これを纏めることで前期末(9月)に基本方針を発表した。さらに本方針を基に、H27年度後期(10月)より将来構想検討委員会を設置し、具体的な制度化や取組について検討・審議し、中間報告を纏めた(3月末までに既に7回の委員会会議を実施した)。 ○10月に機構による監事監査が実施され、各部署ごとの現状に於ける課題と将来ビジョンに向けた特色ある取組などのヒアリングが2日間に亘り実施された。評価結果としては、概ね高い評価が得られたが、H29年度にはH26年度認証評価結果指摘の「改善を要する点」について具体的な改善が実施できるようにとの指導があった(10月)。 ○校長を中心とするW.G.による産業界のニーズ・動向も含めた上記基本方針に基づいて、若手~中堅教員をメンバーとする将来構想検討委員会において、高専機構本部の動きとも連動した本科や専攻科の改組・充実に関する具体的取り組みを検討し中間報告を纏めた(3月実施済)。</p>	<p>・H26年度認証評価結果における「改善を要する点」は、①準学士課程に於ける「倫理力」、「コミュニケーション力」の十分な担保と、②高専機構に拠るものでなく、米子高専独自の自己点検評価書の章立ておよび目次を作成し運営会議・学科長会議にて承認を得た(1月)。来年度中に評価書原案(たたき台)を作成予定である。</p>	①については、H29年度に向けたカリキュラム決定にて実施予定であり(7月決定)、②については高評価を得た石川高専を訪問・調査を実施し、米子高専独自の自己点検評価書原案の章立ておよび目次を作成し運営会議・学科長会議にて承認を得た(1月)。来年度中に評価書原案(たたき台)を作成予定である。	達成した	運営会議 教務部 専攻科
<p>①-2 定期的に、卒業生・修了生及び採用実績のある企業にアンケートを実施し、産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科・専攻科の大括り化等について検討を行う。</p>	<p>①-2 産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科・専攻科の大括り化等について検討を行う。 ○定期的(原則:1回/5年)に、卒業生・修了生および採用実績のある企業にアンケートを実施しその結果を纏め、点検・評価委員会や運営会議にて審議の後、各部署における改善への具体的取り組みを促す。</p>	<p>○今年度は卒業生・修了生および採用実績のある企業等を対象とする定期的アンケートの実施年であり、前期末(9月)までに配布者リストを作成した。H22~H26年度に亘る対象者は、卒業生・修了生:約1,000名、企業:377社、大学等:150学科であり、後期始め(10月)にアンケート配布を実施した(アンケート締め切りは11月末)。アンケート結果は、2月末を目処に纏めて、来年度初めに点検・評価委員会にて報告・検討する予定である。</p>			達成した	運営会議
<p>②本科入学時の基礎学力を把握するための試験を実施する。 教育の改善に資するため、基幹的な科目である「数学」、「物理」について学習到達度試験を実施し、試験結果を分析し、学生の学習到達度を向上させるための教育課程や教授方法の改善に役立てる。 本科及び専攻科でTOEICを義務付け、その結果を基に英語力の強化について検討する。 英語を科目としてだけでなく、実際のコミュニケーションのツールでもあるということを意識させるような大会等への参加を促し、国際的な研修、アカデミックな講習会などへの参加を奨励する。</p>	<p>②入学時の基礎学力を把握するための試験や学習到達度試験を実施し、結果の分析を行う。また、英語については、TOEICを義務付け、英語力を向上させる。 ○入学直後の本科新入生を対象に基礎学力試験を実施する。 ○学習到達度試験(「数学」、「物理」)を実施し、教育改善に役立てる。 ○本科3年生にTOEIC受験を義務付ける。 ○本科4年生で開講する新しい英語選択科目の内容について継続して検討する。 ○実用英語検定、工業英語検定、TOEICスコアなどで条件を満たした学生に単位認定を行う。 ○英語力向上のための外部講師による初級および中・上級のTOEIC講座の実施方法や内容について見直す。 ○TOEICスコアを分析し、英語力を伸張させる教授法について検討する。 ○外国語科と専門科目担当者間で英語力の伸張に関して情報交換する。 ○英語弁論大会、全国プレゼンテーションコンテストへの参加。 ○TOEIC試験等の資格試験への受験を奨励し、複数回の受験を促し、結果の向上を記録してフィードバックする体制を整える。 ○低学年(1~3年生)において、授業の中で定期的に語彙テストを行い、学年末に学年ごとの英単語コンテストを実施する。 ○国際大会等に参加する学生のプレゼン等の英語指導を専門学科の教員と連携して行う体制を整える。</p>	<p>○入学直後の本科新入生を対象に基礎学力試験を実施した(4月実施済)。その結果26年度入学生よりも平均して若干の学力向上が確認できた。 ○平成28年1月に学習到達度試験(「数学」、「物理」)を実施し、教育課程や教授方法の改善に役立てた。例えば、26年度の到達度試験結果に基づいて、物理では新たに27年度から3年生に模擬試験を実施し(1月)学習内容の復習をさせた結果、学力向上を確認した(3月確認済)。数学でも従前から3年生に模擬試験を実施し(11月実施)しているが、26年度からは1・2年生にも模擬試験を課すことによって学習内容を復習させている。28年度も到達度試験結果を基に教育課程や教授方法の改善を継続して検討する。 ○本科3年生にTOEIC受験を義務付け、年度末までに実施した(2月実施済)。 ○継続して本科4年生で開講する新しい英語選択科目の内容について継続して検討した。 ○年度末に実用英語検定、工業英語検定、TOEICスコアなどで条件を満たした学生に単位認定を行った(2月実施済)。 ○英語力向上のための外部講師による初級および中・上級のTOEIC講座を実施した(5~11月実施済)。 しかしながら、参加学生が少なかったため、28年度に向け実施方法や内容の改善点について、教務主事、専攻科長、外国語科教員と検討を始めた(11月~)。 ○TOEICスコアを分析し、英語力を伸張させる教授法について検討している(検討中)。 ○外国語科と教務・専攻科担当者間で英語力の伸張に関して情報交換した(11月実施済、3月実施済)。 ○英語弁論大会、全国プレゼンテーションコンテストへの参加を奨励した。 ○TOEIC試験等の資格試験への受験を奨励し、複数回の受験を促した。 ○低学年(1~3年生)において、授業の中で定期的に語彙テストを行い、学年末に学年ごとの英単語コンテストを実施した。 ○TOEICスコアを分析し、英語力を伸張させる教授法について検討した(本科と専攻科の追跡調査を実施済)。</p>	TOEIC講座の参加学生が少なかった	28年度に向け実施方法や内容の改善点について、教務主事、専攻科長、外国語科教員と検討した(11月~3月)。	達成した	教務部 専攻科 教養教育科
<p>③ 学生・教職員アンケートを実施し、その結果を纏め各部署における改善に役立てる。 定期的に、卒業生・修了生及び採用実績のある企業にアンケートを実施し、各部署における改善に役立てる。 在校生に授業評価アンケートを実施する。 米子高専卒業生ネットワーク(Ynet-net)を活用し、学校改善のため、卒業生との情報交換を行う。</p>	<p>③卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価を実施し、その結果を積極的に活用する。 ○学生・教職員アンケートを毎年実施しその結果を纏め、点検・評価委員会にて審議・承認の後、各部署における改善への具体的取り組みを促す。また、この調査結果を校内ホームページに公開する。 ○平成27年度は定期的(原則:1回/5年)に、卒業生・修了生および採用実績のある企業にアンケートを実施する年に当たりこれを実施しその結果を纏める。</p>	<p>○昨年度実施された学生・教職員アンケート結果を纏めると共に点検・評価委員会で報告・審議し、運営会議にて各部署への伝達と今年度中の取組を検討した(4月実施済)。また、本結果をホームページ上に掲載し、課題・その取り組みについての広報に努めた(5月実施済)。 ○毎年実施する学生・教職員アンケートのサーバを、1S上の安全性から内部サーバへの移行を企画・実施した(12月に終了)。今年度の学生・教職員アンケートは、新規システムにて2月に実施済みであり、その結果を纏め、来年度の点検・評価委員会にて報告・審議の後、各部署における改善への具体的取り組みを促す。 ○今年度は定期的(原則:1回/5年)な卒業生・修了生および採用実績のある企業等を対象とするアンケートの実施年であり、前期末(9月)までに配布者リストを作成した。H22~H26年度に亘る対象者は、卒業生・修了生:約1,000名、企業:377社、大学等:150学科であり、後期始め(10月)にアンケート配布を実施した(アンケート締め切りは11月末)。アンケート結果は、2月末を目処に纏めて、来年度初めに点検・評価委員会にて報告・検討する予定である。</p>				

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成27年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
	<p>○在校生へ授業評価アンケートを実施し、その結果を校内ホームページで公開する。</p> <p>○校内ホームページで公開された授業評価アンケートの結果に対し、授業担当教員がコメントを書き込めるようにする。</p> <p>○授業評価の結果を基に、優れた教育実践例を選出し、スキルを磨くためのFD研修会をできるだけ企画する。</p> <p>○学生による教員顕彰を実施し、評価の高い教員を校内ホームページにて公開する。</p> <p>○米子高専同窓会総会及び支部(関西・中部)総会、更に米子高専首都圏同窓会総会などと併せて、進路担当責任者による卒業生受入企業訪問及び卒業生との交流会(情報交換会)を実施する。</p> <p>○米子高専卒業生ネットワーク(Ynct-net)の人的基盤である同窓会組織やYnct-netポータル・サイトの利用促進など卒業生との情報交換網の整備・充実に努める。</p>	<p>○前期開講科目については在校生へ授業評価アンケートを実施し、その結果を校内ホームページで公開した(10月実施済)。</p> <p>○前期開講科目についての授業評価アンケート結果に対し、授業担当教員がコメントを書き込めるようにした(10月実施済)。</p> <p>○年度末までに授業評価の結果を基に、優れた教育実践例を選出し、スキルを磨くためのFD研修会の開催を検討した。</p> <p>○学生による教員顕彰を実施し、評価の高い教員を校内ホームページにて公開した(11月実施済)。</p> <p>○米子高専同窓会関西支部総会(5月16日)と併せ、進路担当代表者(キャリア支援室長、5学年主任)による関西地区企業訪問(ダイキン工業(株))(5月15日)、米子高専同窓会関西支部(米子高専関西地区卒業生&米子高専卒業生在職企業)－米子高専交流会(5月15日)を実施した。</p> <p>更に、米子高専同窓会中部支部総会(7月11日)と併せ、進路担当代表者(キャリア支援室長、5学年主任)による中部地区企業訪問(三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所、プラザー工業(株))(7月10日)、米子高専同窓会中部支部(米子高専中部地区卒業生)－米子高専交流会(7月11日)を実施した。</p> <p>○米子同窓会本部・支部間などYnct-net連絡網整備の一環としてSkypeによるテレビ会議システムの試験運用を開始した(11月実施済)。</p> <p>○Ynct-net(学校、卒業生、地元企業)の連携推進を図る産学連携コーディネータを配置した(12月・2月実施済)。</p> <p>○高専祭(文化祭)と併せ第2回米子高専ホーム・カミング・デイを実施し、卒業生との交流推進を図った(10月実施済)。</p> <p>○高専卒業生キャリア調査中間報告会パネル・ディスカッションに卒業生をバネラー派遣し、Ynct-net活動の全国展開を図った(10月実施済)。</p> <p>○Ynct-netポータル・サイトを通じた米子高専振興協会求人情報提供サービスのフォロー・アップ調査を実施した(6月実施済)。</p> <p>○Ynct-netポータル・メーリング・リストの試験運用を開始した(10月実施済)。</p>	<p>授業評価の結果を基に、優れた教育実践例を選出し、スキルを磨くためのFD研修会は実施できなかった</p>	<p>27年度は教育改善として「ルーブリック」および「アクティブラーニング」に関するFD(講演会、ワークショップ)を企画・実施した。(9月、3月実施済み)</p>	<p>達成した</p>	<p>企画部 教務部 専攻科 国際交流</p>
<p>④ロボコン・ブロン・デザコン・CADコン及び高専体育大会への参加を奨励する。</p>	<p>④スポーツ系、文科系クラブなどの全国的な各種競技会等やロボコンコンテストなどの全国的なコンテストへの参加を奨励する。</p> <p>○ロボコン・ブロン・デザコン・CADコン及び学会発表などを奨励する。</p> <p>○高専体育大会をはじめとする各種大会への参加を奨励する。</p> <p>○優秀な成績はホームページや掲示等で、また特に優秀な成績については横断幕を作成し学内外にPRする。</p>	<p>○ロボコン中国大会(10月)、デザコン・ブロン(11月)出場学生を支援した。</p> <p>○中国地区高専体育大会(7月)、全国高専体育大会(8月)出場学生を支援した。</p> <p>○インターハイ(7月～8月)、国体(10月)出場学生を支援した。</p> <p>○各種大会やコンテストで優秀な成績を掲示、ホームページ掲載、横断幕などでPRした(6月～3月)。</p>			<p>達成した</p>	<p>学生部</p>
<p>⑤学生会主導による清掃活動を実施するとともに、その活動を点検評価する。</p> <p>白砂青松アダプトプログラムにボランティアとして継続参加し、雪害を受けた松林の再生に取り組む。</p> <p>寮生会主導による清掃活動やボランティア活動を実施するとともに、その活動を点検評価する。</p>	<p>⑤ボランティア活動などの社会奉仕体験活動を実施する。</p> <p>○学生会主導による清掃活動を実施するとともに、その活動を点検評価する。</p> <p>○白砂青松アダプトプログラムにボランティアとして継続参加し、雪害を受けた松林の再生に取り組む。</p> <p>○粟島神社の清掃及び「われもこう祭」のお手伝い等のボランティア活動を実施する。</p>	<p>○白砂青松プログラムに伴う教職員による松林清掃活動を実施した(9月実施済)。</p> <p>○白砂青松プログラムに伴う学生による松林清掃活動(6月実施済)及び植樹を実施した(11月、12月実施済)。</p> <p>○学生会メンバーによる海岸清掃を実施した(12月実施済)。</p> <p>○以下のボランティア活動を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粟島神社の清掃奉仕 6/23(火)と10/8(木) ・われもこう祭のお手伝い 10/18(日) ・彦名公民館祭への留学生参加 11/8(日) 			<p>達成した</p>	<p>学生部 寮務部</p>
<p>(3)優れた教員の確保</p> <p>①多様な背景を持つ教員組織とするため、採用にあたっては、適切な配慮を行う。</p> <p>○優れた教育力を有する者を採用するため、募集にあたって募集要項の応募資格に関する見直しと適正化についての記述を積極的に盛り込む。また、教員採用選考に関する組織の見直しを図り、多角的に人物選考ができる体制とする。</p>	<p>①多様な背景を持つ教員組織とするため、採用にあたっては、適切な配慮を行う。</p> <p>○優れた教育力を有する者を採用するため、募集にあたって募集要項の応募資格に関する見直しと適正化についての記述を積極的に盛り込む。また、教員採用選考に関する組織の見直しを図り、多角的に人物選考ができる体制とする。</p>	<p>○優れた教育力を有する者を採用するため、募集にあたって募集要項の応募資格に関する見直しと適正化についての記述を積極的に盛り込んだ(8月、10月実施済)。</p> <p>また、H26年度より教員採用選考に関する組織の見直しを図り、多角的に人物選考ができる体制とした(11月、12月実施済)。</p>			<p>達成した</p>	<p>運営会議</p>
	<p>②教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために可能な範囲で人事交流制度を活用する。</p>	<p>②教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、可能な範囲で人事交流制度を活用する。</p> <p>○各学科・科に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野および派遣候補者の推薦を依頼する。</p> <p>○各学科・科から提出された資料をもとに、運営会議・教員人事会議で受入と派遣計画を策定し、学科長会議に報告する。</p>	<p>○各学科・科に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野および派遣候補者の推薦を依頼した(6月実施済)。</p> <p>○各学科・科から提出された資料をもとに、運営会議・教員人事会議で受入と派遣計画を策定し、学科長会議に報告した(10月実施済)。</p>		<p>達成した</p>	<p>運営会議</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成27年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
③専門科目及び一般科目理系については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度な資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を配置する。	③理工系については博士の学位を持つ者や技術士・建築士等の職業上の高度の資格を持つ者、理工系以外については修士以上の学位を持つ者や高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を配置する。 ○教員の学位・高度な資格等を調査し、調査結果に基づき学校要覧や研究シーズ集に掲載する。 ○新任教員募集に当たっては、募集要項の応募資格に学位や高度な資格、教育経験など優れた教育力を有する資格記載を盛り込み採用する人材を吟味する。	○教員の学位・高度な資格等を調査し、調査結果に基づき学校要覧や研究シーズ集に掲載した(5月実施済)。なお、本年度より医工連携に関する研究シーズも新たに纏めて掲載した(5月実施済)。 ○新任教員募集に当たっては、募集要項の応募資格に学位や高度な資格、教育経験など優れた教育力を有する資格記載を盛り込み採用する人材を吟味した(8月・10月実施済)。			達成した	運営会議
④ 女性教員の比率向上を可能な範囲で図る。 女性教職員に対する、就業環境改善を目的とした整備を行う。	④ 女性教員の比率向上を図る。 ○各学科・科の教員募集要項に女性教員を積極的に募集している旨を記載する。 ○女性教職員の就業環境改善のため、女性用の更衣室、休憩室、トイレ等の整備を可能な範囲で推進する。 ○インフラ整備検討委員会において環境改善計画を検討し、必要に応じて予算要求を行う。	○各学科・科の教員募集要項に女性教員を積極的に募集している旨を記載した(8月・10月実施済)。 ○女性教職員の就業環境改善のため、女性教職員用の更衣室、休憩室等の整備を可能な範囲で計画・推進した(11月実施、年度未実施)。 ○緊急度に応じた予算要求を行った(校舎管理棟・講義棟防水改修、旧ボイラー室煙突等取り壊し工事等)。			達成した	運営会議 事務部
⑤ 各種FDなどを活用し教員の能力向上を目的とする研修を実施する。また、本校以外で実施される研修等にも教員を積極的に派遣する。 FD活動の一環として、採用2年以内の新任教員の授業力・コミュニケーション能力の向上を目的として、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観等を実施する。	⑤ファカルティ・ディベロップメントなど教員の能力向上を目的とした研修を実施する。 ○授業評価結果が優れた教員を選出し、新任教員の授業参観を実施する。 ○FD活動の一環として、採用2年以内の新任教員の授業力・コミュニケーション能力向上を目的として、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観を実施する。 ○採用2年以内の新任教員の居室として合同教員室および室長を配置し、導入教育の強化を図る。	○授業評価結果が優れた教員を選出し、新任教員の授業参観を実施した(4月より適宜実施済)。 ○FD活動の一環として、採用3年以内の新任教員の授業力・コミュニケーション能力向上を目的として、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観を実施した(4月より適宜実施済)。 ○採用2年以内の新任教員の居室として合同教員室および室長を配置し、導入教育の強化を図った(4月実施済)。			達成した	運営会議
⑥ 機構主催の教員顕彰制度などを活用し、教員の教育活動や生活指導の活性化を奨励する。 毎年度、教育研究活性化経費配分によるインセンティブ付与を行うことで教員の活性化を促す。 点検・評価委員会にて、教育研究活性化経費配分者に対する実施報告書の評価を行う。	⑥ 機構主催の教員顕彰制度などを活用し、教員の教育活動や生活指導の活性化を奨励する。 ○機構主催の教員顕彰制度を活用し、教員の教育活動や生活指導などの取組結果を踏まえ運営会議で教員顕彰推薦に関する人選を行う。 ○前年度の授業評価アンケートおよび課外活動等、教員の教育活動や生活指導の取組結果について調査し、評価基準に基づき評価し運営会議で教育研究活性化経費等の配分を決定する。 ○毎年度、教育研究活性化経費の公募を実施し、応募申請書に対する評価を運営会議メンバーにて行うことでインセンティブ付与による教員の活性化を促す。 ○点検・評価委員会にて、前年度の教育研究活性化経費配分者に対する実施報告書の評価を行う。	○機構主催の教員顕彰制度を活用し、教員の教育活動や生活指導などの取り組み結果を踏まえ運営会議で教員顕彰推薦に関する人選を行った(11月実施済)。 ○企業からの技術相談および地域貢献活動については評価アンケート結果を基に前期分のインセンティブを付与した(9月実施済)が、財政難のため従前の課外活動等、教育活動の取り組み結果に対する教育研究活性化経費等の配分は今年度より廃止を決定した(6月審議・承認済)。また、後期分の技術相談および地域貢献活動は、3月末を目処に纏め来年度初めにインセンティブ付与を実施する予定である。 ○教育研究活性化経費(プレ科研費・新任/若手研究助成費等)の公募を実施し、応募申請書に対する評価を運営会議メンバーにて行うことでインセンティブ付与による教員の活性化を促した(9月実施済)。 ○点検・評価委員会にて、前年度の教育研究活性化経費配分者に対する実施報告書の評価を行った(6月実施済)。			達成した	運営会議 点検・評価委員会
⑦ 各種の制度を活用して、教員の国内外の大学等での研究・研修、国際学会への参加を促進する。	⑦ 各種の制度を活用して、教員の国内外の大学等での研究・研修、国際学会への参加を促進する。 ○国内外の大学等での研究・研修に関する情報を適宜メール等で知らせる。 ○教員の国内外の大学等での研究・研修報告をホームページ等に掲載し公表する。 ○長岡・豊橋技科大との連携を図りつつ、「高専・技科大間教員交流制度」を引き続き実施する。	○国内外の大学等での研究・研修に関する情報を適宜メール等で知らせた(4月から適宜実施済)。 ○教員の国内外の大学等での研究・研修報告をホームページ等に掲載し公表した(4月から適宜実施済)。 ○長岡・豊橋技科大との連携を図りつつ、「高専・技科大間教員交流制度」を引き続き実施した(4月から長岡技科大へ交流派遣実施)。			達成した	運営会議

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成27年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
<p>(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <p>①-1 モデルコアカリキュラムの導入を進める。 「エンジニアリングデザイン教育等」に係る取組事例集などを基に、教育方法の改善を促進する。ICTを活用した教材及び教材管理システムの利活用について検討する。 本科低学年の学習支援を実施する。</p>	<p>①-1 モデルコアカリキュラムの導入を進めるとともに、エンジニアリングデザイン教育を推進し、ICTを活用した教材及び教材管理システムの利活用を促進する。 ○モデルコアカリキュラムに関する研修会に参加し、導入の準備を進める。 ○アクティブラーニング導入に向け、FDの開催を検討する。 ○到達目標の評価のため、取り入れやすい科目からルーブリック作成に着手する。 ○CALL教室の効果的な運用やe-ラーニングの活用などを含めてICTを活用した教育環境の整備を継続する。 ○外部資金や企業人材を活用した教育プログラムを実施し、教育内容の充実を図る。 ○学生TAの活用を含めた本科低学年の学習支援を実施する。 ○新任教員に対し、ベテラン教員による双方向授業を実施し、講義力アップを図る。 ○教員による編入学生への学習支援を実施する。 ○新カリキュラムの導入 ○シラバスの1年生での導入の反省にとどまらず、シラバスの修正を行う。</p>	<p>○モデルコアカリキュラムに関してWebシラバス関連会議に参加するとともに、学校内でカリキュラムマップを作成し、Webシラバス導入の準備を継続した(10月～)。 ○アクティブラーニングに関するFDを実施した(3月実施済)。 ○ルーブリックについて高専フォーラムの研修に数名の教員が参加し(8月)、校内ではFD(講演会)の実施により全教員が理解を深めた結果、一部の教科では導入した(9月～)。 ○継続して「エンジニアリングデザイン教育等」に係る取組事例集などを基に、教育方法の改善を継続して検討した。 ○CALL教室の効果的な運用やe-ラーニングの活用などを含めてICTを活用した教育環境の整備の一つとしてoffice365を利用した全学的なICT環境の整備をした(7月実施済)。 ○外部資金や企業人材を活用した教育プログラムを実施し、教育内容の充実を図った(後期より実施中)。 ○数学、物理についてTAによる本科低学年の学習支援を実施した(5月～2月)。 ○新任教員に対し、ベテラン教員による双方向授業参観を実施し、講義力アップを図った(5月、10月～実施済)。 ○留学生および編入学生へ学習支援の必要性について各学科長に連絡し、学習支援の必要性について確認した(11月実施済)。なお、27年度は留学生および編入学生に対して特設の学習支援は必要なかった。 ○建築学科ではモデルコアカリキュラムの導入に向けて、先行してWEBシラバスの操作説明会、ルーブリックに関する勉強会、シラバスの入力開始を行った。 ○教務部と建築学科で分野別横断能力の評価WGに参加、建築材料、建築計画、建築生産の授業で試行的に実施した。また熊本高専と連携を図りWGを運営した。</p>			達成した	教務部 キャリア支援室 情報教育センター
<p>①-2 高専機構と連動し、「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進めるとともに、学生基本情報を共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進する。</p>	<p>①-2 「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進めるとともに、学生基本情報を共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進する。 ○高専機構と連動し、「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進める。 ○学生基本情報を共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進する。</p>	<p>○「高専学生情報統合システム」導入のため、一部の在学生の学生データを機構本部へ提出した(11月実施済)。 ○学生基本情報を共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進する(継続中)。</p>			達成した。	教務部 キャリア支援室
<p>②JABEE認定プログラム更新のための継続審査を受審し、教育の質の向上に努める。 ○H29年度のJABEE継続審査受審に向けた対応として、教務部、専攻科と連動してカリキュラム改訂を含めた継続的な教育の質の向上に努める。</p> <p>○資格試験の案内パンフレットを作成し、在学生に配布する。 ○在学中の資格取得状況を調査し、その結果を公表する。 ○特例適用専攻科への移行を行う。 ○教育プログラムの継続的改善に努め、JABEE認定プログラム継続審査の準備をする。 ○認定専攻科のレビュー受審の準備をする。</p>	<p>②JABEE認定プログラム更新のための継続審査を受審し、教育の質の向上に努めるとともに、在学中の資格取得を奨励する。 ○H29年度のJABEE継続審査受審に向けた対応として、教務部、専攻科と連動してカリキュラム改訂を含めた継続的な教育の質の向上に努める。</p> <p>○資格試験の案内パンフレットを作成し、在学生に配布する。 ○在学中の資格取得状況を調査し、その結果を公表する。 ○特例適用専攻科への移行を行う。 ○教育プログラムの継続的改善に努め、JABEE認定プログラム継続審査の準備をする。 ○認定専攻科のレビュー受審の準備をする。</p>	<p>○H29年度のJABEE継続審査受審に関しては、昨年度末に現在の2プログラム(複合システムPと建築P)制を堅持して受審する方向決めがなされた。 ○H29年度のJABEE継続審査受審に向けた対応として、H27～H28年度の答案などの成績資料保管に関するアナウンスを行った(4月・翌年2月教員会議にて実施済)。また、昨年度の認証評価、JABEE中間審査の結果を受けて、「改善を要する点」に係わる本科・専攻科のカリキュラム改訂を含めた継続的な教育の質の向上に努めた(7月から本科・専攻科カリキュラム改定の準備を実施した)。 ○5月に資格ガイドブックの作成、7月に配布を行い、資格取得の支援をおこなった。なお、次項にあるように、資格取得結果は匿名通信に掲載した。 ○2月に資格取得者の調査を行い、産名通信3月号に公開した。 ○特例適用専攻科へ移行した(10月計画書等申請済・3月報告書等申請済)。 ○特例適用による学位申請によって、H27修了生全員が学位を取得し、修了式で学位記を授与した。 ○H29年度のJABEE継続審査受審に向けた対応として、専攻科のカリキュラム改訂を検討した(3月実施済)。 ○H28に予定されている認定専攻科のレビュー受審の準備を開始した(H28の受審は延期となった)。</p>	<p>・H26年度認証評価結果におけるカリキュラム改定に係わる「改善を要する点」は、準学士課程に於ける「倫理力」・「コミュニケーション力」の十分な担保の必要性であった。</p> <p>・平成26年度受審したJABEE中間審査で複合システムデザイン工学プログラムを構成する生産システム工学専攻と物質工学専攻のカリキュラムに於いて複合の概念が分かりにくいとの指摘があった。</p>	<p>・H29年度に向けた教務部のカリキュラム改定にて、5学年時の「環境科学・技術者倫理」の選択必修化による「倫理力」の担保、および4学年時の「英語総合演習」必修化による「コミュニケーション力」の担保を予定(7月決定)。また、専攻科も同時期のカリキュラム改定にて、融合複合新領域における教育効果を「医工連携」等のキーワードを基に向上させて行く改定案を作成・承認された(3月運営会議にて承認実施)。</p>	達成した	教務部 専攻科 キャリア支援室 JABEE委員会
<p>③ 学校の枠を超えた学生の交流活動を推進・奨励する。</p>	<p>③学校の枠を超えた学生の交流活動を奨励する。 ○中四国専攻科研究交流会に参加する。 ○他高専学生寮との寮生会交流会を実施する。</p>	<p>○中四国専攻科研究交流会に参加した(4月実施済)。 ○松江高専との寮生会役員交流会を実施した(11月実施済)。</p>			達成した。	教務部 学生部 寮務部 専攻科

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成27年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
	<p>④エンジニアリングデザイン教育等に係る取組事例集の総合データベースを基に、特色ある教育方法の改善を検討する。 ○自学自習、まちづくり活動、技術プロジェクト活動などを通じて、学生の人格形成とエンジニアリングデザイン能力の育成を推進する。 ○エンジニアリングデザイン教育に関するFD研修会の開催を検討する。 ○専攻科における特色ある教育方法の実践例を分析し、今後の対応を検討する。</p> <p>○技術プロジェクト活動やまちづくり活動を通して、学生の人格形成とエンジニアリングデザイン能力の開発が図れるように教育環境を改善・整備を検討する。</p>	<p>○エンジニアデザイン教育の一貫として建築学専攻の1、2年生が隠岐の島町で空き家活用計画案について発表した(10月実施済)。 ○エンジニアリングデザイン教育に関するFD研修会の開催を検討したが、26年度にエンジニアリングデザイン教育のFDを実施したこともあって開催は見送った。 ○専攻科における特色ある教育方法の実践例を分析し、カリキュラムの見直しや実験テーマ等の内容を検討した(3月実施済)。 ○鳥取大学医学部との間で医工連携をキーワードとした教育プログラムについて検討した(6月、11月実施済)。 ○建築学科では中心市街地における空き屋活用実践を昨年度より引き続き行った。 ○建築学科ではデザコンの課題を活用したエンジニアリングデザイン教育を行い、その成果として、空間部門審査員特別賞、創造部門優秀賞、構造部門最優秀賞を獲得した。</p>			達成した	教務部 専攻科
<p>⑤各界有識者による本校の評議員会を組織・開催し、外部評価を実施するなど多角的な評価の取り組みによって教育の質の保証がなされるように留意する。 大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を計画的に受審し、その評価結果を共有する。</p>	<p>⑤多角的な評価への取り組みによって教育の質の保証がなされるように留意する。 ○原則として毎年度ごとに、各界有識者により組織した本校の評議員会を開催し外部評価を実施することで、継続的な教育の質の保証・改善に努める。 ○大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を計画的に受審し、その評価結果を共有する。また、この評価結果を校内ホームページや学校要覧その他に公開し、広報活動に努めることで本校の教育の質の高さをPRする。</p>	<p>○今年度は1月に、各界有識者により組織される本校の評議員会を開催し、本校の将来ビジョンとH27年度計画達成状況(自己点検書に基づく)を報告した。さらに、これに関する審議・検討を実施することで継続的な教育の質の保証・改善に努めた。特に、5～10年後の本校将来ビジョンに関しては、運営会議ビジョンワーキンググループで作成した基本方針に則り、校長自らが発表を実施することで、評議員会メンバーに活発な意見具申を促した。 ○昨年度受審した機関別認証評価の評価結果を冊子としてまとめ、学内で情報を共有すると共にホームページでの公開や学校要覧その他配布物に広く掲載し、広報活動に努めることで本校の教育の質の高さや特色をPRした(6月～実施済)。また、昨年度の認証評価、JABEE中間審査の結果を受けて、「改善を要する点」に係わる本科・専攻科のカリキュラム改訂を含んだ継続的な教育の質の向上に努めた(7月から本科・専攻科カリキュラム改定準備を実施)。 ○認証評価結果の優秀校である石川高専を訪問し、自己評価書の作成方法やその定量的評価制度等の情報を得ることで、本校に於ける特色ある自己評価書の作成を模索した(11月実施済)。</p>	<p>・H26年度認証評価結果における「改善を要する点」は、①準学士課程に於ける「倫理力」、「コミュニケーション力」の十分な担保と、②高専機構に拠るものでなく、米子高専独自の自己点検評価書原案の章立ておよび目次を作成し運営会議、学科長会議にて承認を得た(1月)。来年度中に評価書原案(たたき台)を作成予定である。</p>	①については、H29年度に向けたカリキュラム改定にて実施予定であり(7月決定)、②については高評価を得た石川高専を訪問・調査(11月実施)し、米子高専独自の自己点検評価書原案の章立ておよび目次を作成し運営会議、学科長会議にて承認を得た(1月)。来年度中に評価書原案(たたき台)を作成予定である。	達成した	運営会議 企画部
<p>⑥インターンシップ情報の充実を図るとともに、可能な限り学生が卒業までにインターンシップに参加できるよう、産業界等との連携を推進する。また、地域産業界との連携による共同教育体制を検討する。</p>	<p>⑥学生が卒業までにインターンシップに参加できるよう産業界等との連携を推進するとともに、地域産業界との連携による共同教育体制を検討し充実を図る。 ○インターンシップ情報データベースの充実を図る。 ○県産業振興機構、ふるさと定住機構、米子高専振興協力会等と連携し、地域産業と連携した共同教育を検討する。</p>	<p>○4年担任および進路指導教員の協力も得ながら、5月中旬から6月中旬にかけてデータの更新・追加などインターンシップ情報の充実をおこない、学生のインターンシップ活動を支援した。 ○インターンシップ先を確保するために、県行政機関などと打ち合わせする他、国の就活ガイダンスなどを活用した(その都度実施済)。 ○9月にオープンファクトリーを実施し、本科低学年生のキャリアパスの育成に役立った。 ○4月にインターンシップに関する講演会を4年生を対象にして開催し、インターンシップの動機付けと意義の再確認をおこなった。 ○6月にガイダンスと身だしなみ講座を開催し、インターンシップの意義の再確認と諸注意をおこなった。 ○県産業振興機構、県経営者協会、ふるさと定住機構等と協力しインターンシップ事業の促進と充実をはかった(その都度実施済)。</p>			達成した	教務部 キャリア支援室
<p>⑦最新の技術トレンドを取り入れた教育体制の構築・強化を図る。 鳥取県、近隣自治体、その他産業界組織等との連携を強め、米子高専振興協力会との連携活動や卒業生ネットワークの構築・運営を通して継続的に地域の産業振興に貢献するとともに、地域共同教育を推進する。</p>	<p>⑦最新の技術トレンドを取り入れた教育体制の構築・強化を図り、地域の産業振興に貢献するとともに、地域共同教育を推進する。 ○企業技術者による最先端技術の講演・授業を実施する。 ○地域企業の課題を卒業研究・専攻科特別研究等に取り入れ、地域企業との共同教育を行う。 ○3Dデータ研究会などを活用した授業を実施する。 ○第3学年で開講している機械工学セミナーに、地元のエンジニアを講師として招き講義を行う。 ○学科同窓会ネットワークづくりを充実させ、その中で、同窓生を中心とした企業人材との連携を深める。 ○非常勤講師が可能な企業技術者/研究者の調査を行う。 ○企業技術者/研究者を非常勤講師として活用することを検討する。 ○企業技術者/研究者を講演会や公開講座の講師として活用することを検討する。 ○企業人材や外部の専門家を活用した授業の継続と充実を図る。 ○地域の建築家、技術者、行政機関職員などを非常勤講師に迎え、地域共同教育を実施する。 ○年度当初に、非常勤教師と常勤講師の意見交換会を設け、授業評価アンケートに対するFDを行う。</p>	<p>○高専機構の「企業技術者等活用プログラム」によって企業技術者を招聘し、各専門学科等において先端的トピックを紹介する講演・授業を7件実施した(その都度実施済)。 ○振興協力会企業を中心に、地域企業のニーズにもとづくテーマで卒業研究等を42件実施した(その都度実施済)。 ○3Dデータ研究会(H27年度は2回実施、H26年度は5回実施済)で培った3D造形技術をもとに、ものづくりセンターにて卒業研究等での部品加工の指導(その都度実施済)、エンジョイ科学館での造形指導(7月実施済)を行った。 ○機械工学科では第3学年で開講している機械工学セミナーに、地元のエンジニアを講師として招き講義を行った(4～2月)。 ○電気情報工学科では昨年度立ち上げた学科独自の同窓会が活動中であり、現在も継続して活動中である。 ○電子制御工学科では非常勤講師が可能な企業技術者/研究者の調査を行った(10～12月：鳥取大学、鳥根大学、鳥取県産業技術センター)。 ○電子制御工学科では企業技術者/研究者を非常勤講師として活用することを検討した(12月：28年度電子物性の非常勤講師採用予定)。 ○電子制御工学科では企業技術者/研究者を講演会や公開講座の講師として活用した(9月：iOSアプリ開発講座、特別日課講演、10月クアルコムジャパン講演会)。 ○物質工学科では企業人材による授業を実施し、アンケートによる影響評価を行った(その都度実施済)。 ○建築学科では設計製図を中心に、創造実験演習、建築計画、建築生産などの授業で、企業実務者を非常勤講師として迎え、社会のニーズを組み入れた授業を行った。 ○建築学科では年度当初に、非常勤・常勤講師の意見交換会を設け、前年度の授業評価アンケートの結果などを用い双方のFDと意見交換を行った。 ○建築学科では建築材料、都市計画、建築生産の座学の形態を、アクティブラーニング型に変更した。</p>	電気情報工学科:活動継続していくことが課題である。	電気情報工学科:定期的な会合をもち、活動内容を検討する。	達成した。	地域共同 テクノセンター 各学科

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成27年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
<p>⑧国立高等専門学校機構本部と連動し、両技術科学大学との連携を推進し、研究・教育の分野で交流を図る。 鳥取大学と連携しながら、継続的に鳥取県西部地域における「知の拠点」となり得る高等教育機関を指向する。 理工系大学との授業及び共同研究の継続と充実を図る。 地元大学との連携を推進する。 大学進学者との懇談会を設け意見聴取を行う等、OBとの連携を通して大学教育との円滑な接続を目指す。 設立から50年経過した高専制度を社会環境の急激な変化に対応させるために、技科大や他高専との連携を軸に専攻科を充実させ、大学工学部卒と異なる個性を持つ技術者の教育並びに地域を中心とする産業界や地方公共団体と連携した研究活動を推進する。</p>	<p>⑧理工系大学との間での連携を検討し、実施する。 ○国立高等専門学校機構本部と連動し、長岡技術科学大学との連携を推進する。 ○本校教員と鳥取大学医学部教員の共同研究を推進する。また、専攻科から鳥取大学医学部大学院への進学を支援する。 ○地域的な特長を生かし、医工連携を旨いとして、鳥取大学医学部との連携協力関係の構築を推進する。 ○第5学年で開講している機械動力学に、大学から教員を招き講義を行う。理工系大学との共同研究を行う。 ○イノベーション指向人材育成の体制整備及び基本方針を策定する。 ○調査した人脈のある大学において、各OBの大学での様子等を調査する。 ○技科大等との共同研究が可能な分野の検討をする。 ○技科大等と教育・研究の分野で交流可能な会の開催状況を調査する。 ○鳥取大学医学部との医工連携を推進するため、共同研究や専攻科から同医学部大学院への進学を検討する。 ○「三機関が連携・協働した教育改革」における共同研究プロジェクト等を通して連携を推進する。 ○9月頃に呉高専と構造系研究交流会を行い、専攻科生・本科生による研究紹介を行い、各校の引率教員が質疑を行い、研究の醸成を行う。 ○豊橋技科大の教員を中心とした、呉・米子の共同研究を行う。 ○鳥取県建築交流会に参加し、地域の高等教育機関における課題について意見交換を行う。</p>	<p>○国立高等専門学校機構本部と連動し、両技術科学大学との連携を推進するため、長岡技術科学大学へ人事交流要員1名を派遣する予定であったが、採択されなかったため、内地研究員として派遣することにした。 ○鳥取大学大学院医学研究科へ進学した学生の体験談を入れた在校生向け専攻科PRを実施した(1月実施済)。 ○地域的な特長を生かし、医工連携を旨いとして、鳥取大学医学部との間で教育プログラムについて協議した(6月、11月実施済)。 ○機械工科学科第5学年で開講している機械動力学に、大学から教員を招き講義を行っている。理工系大学との共同研究を行った(4～2月)。 ○鳥取大学が主催する「医療機器開発人材育成共学講座」へ教員が参加した(6～11月4回実施済)。 ○電気情報工科学科ではOBが進出した豊橋科大の研究室と交流を開始した。今後も連携を続けていく見込みである。 ○電気情報工科学科では長岡技科大のパワーエレクトロニクスに関する研究室と交流中である。本年度も長岡技科大の教員を招いて出前講座を開催し、人的な交流が活発になってきた。 ○電子制御工科学科では技科大等との共同研究が可能な分野の検討した(7月、豊橋技科大、9月、長岡技科大)。 ○電子制御工科学科では技科大等と教育・研究の分野で交流可能な会の開催状況を調査した(5月～現在)。 ○電子制御工科学科教員を28年度に内地研究員として派遣することを決定した(1月)。 ○物質工科学科では ・鳥取大学医学部生命科学科との高専・大学連携を検討している(その都度実施済)。 ・島根大学総合理工学部との共同研究を継続中(その都度実施済)。 ・「三機関が連携・協働した教育改革」における共同プロジェクトを実施した(その都度実施済)。 ・広島大学と干潟再生技術の共同研究を実施した(その都度実施済)。 ・広島大学生物生産学部付属竹原ステーションにて物質工科学科の学生が、宇部高専の学生とともに広島大学生物生産学部の教員の指導のもと体験型の学習「水族セミナー」を受講した(7月実施済)。 ・豊橋技術科学大学との共同研究を実施した(その都度実施済)。 ・大阪市立大学との共同研究を実施した(その都度実施済)。 ○建築学科では ・長岡技術科学大学との人事交流を行った。 ・長岡、豊橋の教員を招き、5年生に対して講演会を行った。 ・9月に構造系交流会として、有明高専で呉、有明、米子の教員、学生が集まり、研究発表と構造プレゼンテーションを行った。 ・鳥取県建築教育交流会は、環境大学のカリキュラム見直しに伴い、今後の実施形態などについて検討会を8月に持った。</p>	<p>電気情報工科学科:交流活動を継続していくことが課題である。</p>	<p>電気情報工科学科:出前講座等を活用して技科大の教員を本校に招くなど、人的な交流を活発化する。</p>	<p>達成した</p>	<p>教務部 専攻科 各学科</p>
<p>⑨ICT活用教育に必要な校内ネットワークシステムなどの情報基盤について、環境の整備を推進するとともに、ICTを活用した教育方法の推進・充実を図る。 ○ICT活用教育に必要な校内ネットワークシステムなどの情報基盤の整備を計画的に進める。</p>	<p>○CALL教室の効果的な運用やe-ラーニングの活用などを含めてICTを活用した教育を継続する。 ○材料力学および設計法のe-ラーニングシステムとCADのチュートリアルソフトを紹介し自学自習に役立てる。 ○講義や実験資料のデジタル化状況を調査し、収集・整理に努める。 ○e-Learningシステムの利用状況を調査し、利点および課題を検討する。 ○Matlabを利用している授業・実験テーマの利用状況を調査し、利点および課題を検討する。 ○CADソフトの充実と活用を図る。 ○ICTを活用した教育システムに関する教材および運用方法を調査・検討する。 ○学校内にサーバープログラムを置き、建築棟のCAD室のみでなくメディアラボでも授業や、学生の自学自習が実施できる環境について整備検討する。 ○e-ラーニング導入に向けた予算を中心とした実施検討を行う。</p>	<p>○ICT活用教育に必要な校内ネットワークシステムなどの情報基盤の整備を計画的に進め、建築学科の講義のため、図書館2Fの講義室にルーターを設置した(10月実施済)。 ○ICT活用については、学習到達度試験(数学・物理)対策として、e-ラーニング(CBT)を利用したり、電子制御工科学科ではデジタル回路、電子デバイスなどでCBTを授業に採用し、電子制御工科学科や物質工科学科ではレポート提出等にLMS(Moodle)を取り入れている(前年度より)。 ○教養教育科ではCALL教室の効果的な運用やe-ラーニングの活用などを含めてICTを活用した教育を継続した。 ○機械工科学科では、材料力学および設計法のe-ラーニングシステムとCADのチュートリアルソフトを紹介し自学自習に役立てた(4月)。 ○電気情報工科学科では講義や実験資料のデジタル化の状況を調査中。本年度は各教員間で情報共有の方法を検討した。 ○電子制御工科学科では ・e-Learningシステムの利用状況を調査し、利点および課題を検討した(10月)。 ・Matlabを利用している授業・実験テーマの利用状況を調査し、利点および課題を検討した(4月)。 ・CADソフトの充実と活用を図るため、28年度製図授業でCADソフトを活用する(4～9月:NSK補助金申請内で検討、1月実施)。 ○物質工科学科では ・3年生の情報科学IIでは、化学構造式図画ソフトの活用を行っている(その都度実施済)。 ・「情報工II」においてe-ラーニングプラットフォームmoodleを使用し、課題の提示や解答の収集、授業資料の配布などに利用した(10月実施済)。 ○物質工学実験において分子モデリングソフトWinmstarを用い、分子長の計算などを行った(5月実施済)。 ○建築学科では ・ICT活用教育の実践として、iPadを45台導入し、建築材料、建築生産、都市計画の授業の中で活用を始めた。 ・ICT活用教育の発展のため、Wi-Fiアンテナを導入し、20台までの接続確認、BackBoard授業内導入の調査を行った。一般教室には有線接続のインフラがなく、現在の校内無線LANでは10台程度のiPadしか接続できない教室があった。 ・BackBoardの普及に向けた研修、11月鹿角高専で行われたFD研修会に参加した。 ・CAD教育の先端事例として、8月に東京でCADメーカー主催の研修会で講演した。</p>	<p>電気情報工科学科:教員間での情報共有が必要</p>	<p>電気情報工科学科:科会等で情報交換をおこなう。</p>	<p>達成した</p>	<p>教務部 各学科・科</p>
<p>(5) 学生支援・生活支援</p>	<p>①メンタルヘルスに係る知識の普及のための講習会等を実施し、学生支援・生活支援の質の向上と充実を図る。 ○メンタルヘルス関係の講習会を実施する。 ○就学支援が必要な可能性のある新入生の事前相談を実施する。</p>	<p>○命の大切さに関わる講演を1年生対象に行った(第1回:6月実施済、第2回:1月実施済)。 ○1～5年生の学年ごとにメンタルヘルス関係の講演会を実施した。 ○健康調査書に発達障がいとの記述がある全ての学生の保護者に連絡を取り、希望者と面談を行った。</p>			<p>達成した</p>	<p>学生部 学生相談室</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成27年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
<p>支援等</p> <p>②アメニティに富んだ空間を有する図書館や寄宿舎の充実・改修など、利用実態の分析・把握を踏まえつつ計画的な整備・運用を図る。 鳥取県東中部、中山間部、県外からの入学志願者及び優秀な入学者の確保のために、寄宿舎の受け入れ体制を再検討するとともに、入寮者数の増加、女子留學生の増加、多様な學生の入寮、及び設備の老朽化を踏まえた計画的な整備を図る。 寄宿舎等施設の現況、利用状況等の実態を把握し、計画的な整備を推進する。</p>	<p>②図書館の充実や寄宿舎の改修など利用実態の分析を踏まえ計画的な整備を図る。 ○アメニティに富んだ空間を有する図書館や寄宿舎の充実・改修など、利用実態の分析・把握を踏まえつつ計画的な整備・運用を図る。 ○寄宿舎の有効利用を考慮した生活支援整備の年次計画の見直しを行うとともに、当該年度の整備計画を策定して整備を実施する。 ○生活支援整備のための営繕工事等の予算要求を行う。 ○入寮生増加に伴う寄宿舎の充実・改修などについて、関連部署と検討・協議を行いその結果を今後の整備計画策定に反映させる。 ○寄宿舎の整備計画やアメニティ空間の整備に向けた素案づくりを推進する。</p>	<p>○アメニティに富んだ空間を有する図書館や寄宿舎の充実・改修など、利用実態の分析・把握を踏まえつつ計画的な整備・運用を図る(10月～年度末)。具体的には図書館デッキテラスの設置やリベラルアーツ図書・書架の充実などを実施した(10月計画、年度末に実施済)。 ○昨年度末にTOEIC試験対策用図書を購入し、TOEIC関連図書の充実を図っている。 ○読書の習慣付けや図書館に目を向かせる取組を下記のとおり行った。 ・定期試験前1週間及び期間中の日曜祝日を閉館し、多数の學生が利用した。 ・ビブリオバトルを開催した(7月、12月実施済)。 ・各クラスの學生図書委員を鳥取県立図書館へ派遣し、図書館の利用方法等の研修を実施した(7月11日実施済)。 ・所蔵が少ないジャンルを中心に、県立図書館から相互貸借で借りた図書で県立図書館コーナーを設置し貸出を行った(第1回目は4月3日～2か月間235冊、第2回目は8月6日～2か月間300冊)。 ・1年生対象の読書推進講演会を行った(6月実施済)。 ・読書会を本年5回開催した(その都度実施済)。 ・図書館内の交流プラザで、地元の版画家作品による版画展を開催した(7/13～1か月)。 ・デッキテラスに椅子、テーブル、プリンターを整備した(12月実施済)。 ・学生リクエストによる図書を購入した(125冊)。 ・リベラルアーツ関連図書の購入した(526冊)。 ・文化セミナー第2回(6月、参加者23名)及び第3回(10月、参加者16名)の開催を、図書館2階アカデミックシアターで行った。 ○今年度の整備計画を策定し実施した。 ・男子寮生の増加に対応するため、共用スペースの居室化および空き部屋の整備を行った。 ・老朽化したロッカー、机、椅子を計画的に更新した。 ・年次計画の見直しについては、将来構想検討委員会の審議結果(答申)を待ち、今後行う。 ○営繕工事等の予算要求を財務係等と協議して行った(営繕事業に以下の5件)。 1) 南寮等便所改修、2) 寄宿舎洗濯場改修、3) 寮防災設備等更新、4) 寮外部建具改修(2期)、5) 寄宿舎外屋上防水改修 ○入寮生増加に伴う寄宿舎の充実・改修など今後の整備計画について検討を行った。 入寮生の増加傾向は落ち着き、毎年、男子50人・女子20人程度が入寮する状況となった。 このままあと2年推移すれば男子250人、女子100人となり、男子も定員の215人を超える状況となる(女子は既に定員を越えている)。 この状況と将来構想検討委員会の審議結果(答申)を待って、整備計画の詳細を今後策定する。 ○アメニティ空間の整備計画を検討し、営繕事業要求を行った(南寮等便所改修)。</p>	<p>○(寮)年次計画の見直しおよび今後の整備計画策定については、将来構想検討委員会の審議結果(答申)を受けて、年次計画の見直しおよび今後の整備計画策定を行う。</p>	<p>○(寮)将来構想検討委員会の審議結果(答申)を受けて、年次計画の見直しおよび今後の整備計画策定を行う。</p>	<p>達成した</p>	<p>運営会議 寮務部 事務部</p>
<p>③日本学生支援機構、及び各種財団・民間の奨学金制度等の学生支援に係る情報提供を行う。</p>	<p>③各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供体制を充実させる。 ○日本学生支援機構、および各種財団・民間の奨学金制度の情報提供を行う。</p>	<p>○授業料減免制度の情報提供を行い支援した(4月・10月実施済)。 ○日本学生支援機構、および各種財団・民間の奨学金制度の情報を提供し支援した(4月～10月実施済)。 ○高校生就学支援金の給付に関して支援した(7月・8月実施済)。</p>			<p>達成した</p>	<p>学生部</p>
<p>④ 企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を含めたキャリア支援を充実させる。</p>	<p>④企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を含めたキャリア支援を充実させる。 ○求人データベースの充実を図る。 ○企業見学会、大学・大学院説明会や進路セミナーを開催する。</p>	<p>○求人情報を各学科進路担当者が作成し、それを学生に公開することで、学生の就職活動に活用した(その都度実施済)。 ○4月に大学院説明会を実施し、専攻科生の進学を支援した。 ○2月に就活セミナーを開催し、学生の就職活動を支援した。 ○3月に企業・大学合同面談会を実施し、学生の就職・進学を支援した。</p>			<p>達成した</p>	<p>キャリア支援室</p>
<p>(6) 教育環境の整備・活用</p> <p>①-1 施設・設備の点検・評価を行い、施設マネジメントの充実を図る。 ○各室の稼働状況を調査・確認し、部屋の有効利用等を検討する。 ○設備整備マスタープランに基づき教育研究設備の計画的な整備・充実を図る。 ○キャンパスマスタープランに基づく中長期的な施設の整備を図る。 ○施設パトロールを中心に安全管理に万全を期し、必要に応じた整備を実施する。 ○施設整備計画に基づくエコ、バリアフリー化を計画し推進する。 ○交流プラザに新たなリベラルアーツセンターを設置すべく準備を進める。</p>	<p>①-1 施設・設備の点検・評価を行い、施設マネジメントの充実を図る。 ○各室の稼働状況を調査・確認し、部屋の有効利用等を検討する。 ○設備整備マスタープランに基づき教育研究設備の計画的な整備・充実を図る。 ○キャンパスマスタープランに基づく中長期的な施設の整備を図る。 ○施設パトロールを中心に安全管理に万全を期し、必要に応じた整備を実施する。 ○施設整備計画に基づくエコ、バリアフリー化を計画し推進する。 ○交流プラザに新たなリベラルアーツセンターを設置すべく準備を進める。</p>	<p>○各室の稼働状況を調査・確認し、部屋の有効利用等を検討した(6月～実施済)。 また、用途変更を含む施設有効利用・再利用を実施した(例えば、用務員室の女性教職員用更衣室への転用など)。 ○設備整備マスタープランに基づき教育研究設備の計画的な整備・充実を図った(5月～実施済)。 ○キャンパスマスタープランに基づく中長期的な視点に立った計画的な施設の整備を図り、今後のエコ・バリアフリー化を検討した(11月～実施中)。 ○設備マスタープランによる設備整備を計画的に実行し、設備維持費用に関する予算的な検討を図った(5月から適宜実施)。 ○安全管理に関する施設パトロールを月ごとに計画的且つ継続的に実施した。 ○平成28年4月リベラルアーツセンター設立に向けて、交流プラザにリベラルアーツ図書コーナーを整備した(完成は3月末)。</p>			<p>達成した</p>	<p>運営会議 事務部 インフラ整備・検討委員会 環境マネジメント委員会</p>
<p>①-2 安全で快適な教育環境の充実を計画的に推進する。 ○建物の用途変更も踏まえ、必要な耐震化を推進する。</p>	<p>①-2 安全で快適な教育環境の充実を計画的に推進する。 ○安全で快適な教育環境の充実を計画的に推進する。 ○建物の用途変更も踏まえ、耐震化の必要性を検討し、必要に応じて予算要求を行う。</p>	<p>○安全で快適な教育環境の整備として、南寮の外壁修繕、第二体育館の屋根改修及び第一・第二体育館の耐震改修工事(照明・バスケットゴール更新)を実施した(完成は3月末)。 ○継続的に実施している安全管理に関する月ごとの施設パトロール等において、点検評価アンケートを踏まえた施設点検を実施した(各月実施済)。 ○減損会計に基づく施設稼働実態は調査済み(2月)であり、今後の用途変更も含め、施設再利用(将来計画)を検討した。</p>			<p>達成した</p>	<p>インフラ整備・検討委員会</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成27年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
	<p>①-3 PCB廃棄物の保管・管理に 万全を期する。</p> <p>② 専門学科分野ごとの安全管 理講習会を実施する。 安全管理のための機構等主催 の講習会に積極的に参加させ る。</p> <p>③男女共同参画や理系女子学生 増(特に機械・電気・電子系学 科)に向けた取り組みを積極的に 推進する。 女子学生や女性教職員の生 活・就業環境改善のため、女性用 の更衣室、休憩室、トイレ等の整 備を可能な範囲で推進する。 女性教員比率向上のための取 組を推進する。</p>	<p>○PCB廃棄物の保管・管理に万全を期した。引き続き、PCB処分を開始するまで保管・管理に万全を期する。</p> <p>○平成28年1月にAED等の講習会を開催し、23名の教職員が参加した。 ○他機関が実施する安全管理に関する講習会等に積極的に参加した。 ・平成27年度中国・四国地区国立大学法人等労働安全衛生協議会に総務課長が参加した。 ・ストレスチェック制度に関するセミナーに担当者が参加した。 ○新入学生に実験実習安全必携を配布し、安全意識の啓蒙に努めた。</p> <p>○男女共同参画や理系女子学生増(特に機械、電気・電子系学科)に向けた取り組みを積極的に推進した(8月、9月、10月実施済)。 ○女子学生や女性教職員の生活・就業環境改善のため、女性用の更衣室、休憩室、トイレ等の整備を可能な範囲で推進する。 ○各学科・科の教員公募要項に女性教員を優先して採用検討する旨を記載した(9月・10月実施済)。 ○仕事とライフイベントの両立支援(ワークライフバランス)のための情報を提供し、H26年度から文科省の科学技術人材育成費補助事業における研究支援員の配置に申請・採択され研究支援員を配置している(今年度も4月から実施済)。</p>			達成した	安全衛生委員会
2・研究 や社 会連 携に 関す る事 項	<p>①全国規模の研究シーズ発表の 奨励及び科学研究費補助金等の 外部資金獲得を奨励するととも に獲得率向上に向けた取り組み を実施する。 各種の連携イベントに参加す る。 全国規模のフェアに出展・参加 する。 科研費の獲得に向けた活動を 活性化化する。</p> <p>②産学官連携活動の強化・推進 を図る。 各種のフェアやメディアを通じた 情報発信を行う。</p> <p>③知的財産活動を推進する。 各種のマッチングシステムを活 用し、発明案件の知財化を推進 する。</p>	<p>○全国規模の研究シーズ発表の奨励、及び科学研究費補助金等の外部資金獲得を奨励するとともに、これに関するFDや科研費申請書プレレビューなど獲得率向上に向けた取り組みを実施した(9月実施済)。 ○「とっとり産業技術フェア」へ出展し、学校紹介および研究成果に関する展示を行った(11月実施済)。 ○「2015NEW環境展(5月実施済)」、「JSTイノベーションジャパン2015(8月実施済)」にて教員シーズを発表した。 ○校長による本校を取り巻く財政状況等の説明、およびそれに伴う外部資金獲得に関するFD研修会を実施した(9月実施済)。 ○H27年度科研費の申請に対し、校長、及び産学連携コーディネータによる申請書のプレレビューを31件実施した(10～11月実施済)。 ○鳥取県が主催する「産学連携マッチングセミナー@ダイキン工業TIC」において、学校紹介および教員シーズに関する展示を行った(3月実施済)。</p> <p>○振興協会会オープンファクトリーの拡充(9月実施済)、卒業生ネットワークポータルサイトへの求人情報の掲載(適宜実施済)などを行った。また、OB人材の活用重点をおくコーディネーターの配置について、来年度の予算措置に関する協議を行った(10月実施済)。 ○コーディネーターを4月に2名、12月に1名、2月に1名採用し、振興協会を中心に企業ニーズの掘り起こしを行い、教員シーズとの結びつけを行った(その都度実施済)。 ○「中海・宍道湖・大山圏域ものづくり連携事業ビジネスマッチング商談会」に24件の教員シーズを登録した(10月実施済)。 ○鳥取オフィスにてコーディネーターによる技術相談を24件実施した(その都度実施済)。 ○鳥取県、鳥取大学、ものづくり協力会議、企業(ふんぶん堂)などと連携し、「ファブラボとっとりWEST」の設立に参画した(5月実施済)。 ○鳥取県産業技術センターと連携して「3次元データ活用研究会」を実施した(7月・12月実施済)。 ○米子市・境港市の地方創生戦略策定会議に教員が委員として参画した(その都度実施済)。 ○山陰合同銀行と包括連携協力協定を締結した(3月実施済)。 ○鳥取県・県内高等教育機関及び公設試と、研究用設備や研究支援技術の相互活用、地域産業の研究開発支援のため、「とっとりイノベーションフシリネットワーク」(略称「TIFNet(ティフネット)」)の協定を締結した(9月実施済)。 ○山陰放送が主催するBSSまつりにブース出展し学校紹介およびものづくりに関する展示を行った(9月実施済)。 ○鳥取大学より、本年度の大阪合同ビジネス交流会は実施しない旨連絡があった(大学単独で実施)。</p> <p>○大阪合同ビジネス交流会(鳥取大学・鳥取県産業技術センター・神戸高専と合同)に参加し、研究成果や技術シーズを発表する。</p>		達成した	運営会議 地域共同 テクノセンター	
	<p>②産学官連携活動の強化・推進 を図る。 各種のフェアやメディアを通じた 情報発信を行う。</p> <p>○産学連携コーディネータを配置し、鳥取大学医学部との医工連 携を見据えた企業ニーズの掘り起こしや教員シーズとのマッチ ングを図る。 ○テクノセンター鳥取オフィスを拠点とし、鳥取県の東・中部地 区における産学連携活動を展開する。 ○「包括連携協力協定」締結先との連携事業・連携研究の充実、 拡大を図る。 ○地域の「地方創生」事業に積極的に関わる。</p> <p>○大阪合同ビジネス交流会(鳥取大学・鳥取県産業技術セン ター・神戸高専と合同)に参加し、研究成果や技術シーズを発表 する。</p>			達成した	地域共同 テクノセンター	
	<p>③知的財産活動を推進する。 各種のマッチングシステムを活 用し、発明案件の知財化を推進 する。</p>	<p>○知的財産に関する教職員向けFD研修会を実施した(3月実施済)。 ○教員の特許登録が3件あった(8月、10月、12月)。 ○中国地区拠点校コーディネーターを中心に、全国高専の知財活用事例等の情報を収集した(その都度実施済)。</p>		達成した	地域共同 テクノセンター	

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成27年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
④シーズ集と活動報告を発行する。 研究者データベースへの登録・データ更新を推進する。 ホームページやメディアを活用した情報発信を推進する。	④シーズ集やホームページ・メディアを活用した情報発信を推進する。 ○「米子高専シーズ集2015」「H26年度テクノセンター活動報告」を発行する。 ○医工連携シーズ特集を米子高専シーズ集に盛り込む。 ○JSTの「researchmap」への登録と内容の更新を校内に啓蒙する。 ○ホームページや新聞、テレビ、ラジオ放送等のメディアを介した情報発信を行う。	○「米子高専シーズ集2015」「H26年度テクノセンター活動報告」を発行した(5月実施済)。 ○シーズ集に「医工連携特集」を組んだ他、別冊版も発行した(5月実施済)。 ○JSTの「researchmap」への登録・更新を校内に啓蒙した(その都度実施済)。 ○ホームページや新聞、テレビ、ラジオ放送等のメディアを介した情報発信を行った(その都度実施済)。			達成した	地域共同 テクノセンター
⑤公開講座、出前講座に地域ニーズに即したテーマを設定する。 満足度アンケート調査を行い、内容や実施方法の改善を図る。	⑤公開講座、出前講座に地域ニーズに即したテーマを設定し、満足度の向上を図る。 ○公開講座・出前講座・ジョイント講座等の内容の刷新に努める。 ○各種講座においてアンケート調査を実施し、講座内容の改善と満足度の向上に役立てる。 ○アンケート調査で把握した地域ニーズを実践するための検討を行う。 ○外部機関との連携を図り、実施内容の重複回避や分担実施に努める。	○本年度の講座テーマの計画にあたって、昨年度のアンケート結果や講座の実施状況を鑑みて、新企画を4件設定した(4月実施済)。 ○中学生向けの講座であるエンジヨ科学館の拡充を図り、新たな講座を2件企画し、過去最多の152名の参加があった(7月実施済)。 ○各種講座においてアンケート調査を実施し、満足度等を把握すると同時に講座内容の改善を図った(その都度実施済)。次年度の計画に際して、このアンケート調査結果を参考に企画を練った(3月実施済)。 ○米子市文化財団、わかとり科学技術育成会等と連携した科学技術講座を10件実施した(その都度実施済)。 ○ものづくり道場と連携し、双方に講座を分散させることで効率的に実施した(その都度実施済)。			達成した	地域共同 テクノセンター
①-1 社会のグローバル化に 3 国際交流等に関する事項 ①-1 社会のグローバル化に 国際交流等に関する事項	①-1 社会のグローバル化に 国際交流等に関する事項 ①-1 社会のグローバル化に 国際交流等に関する事項	○鳥取大学、鳥取環境大学と連携して「大学の世界展開力強化事業」(文科省)に応募し、国際交流の拡大・推進を図った(5月実施済)。 ○協定校・南ソウル大学校(韓国)の2015環境研修に参画し、本校学生との学校交流を実施した(12月実施済)。 ○アジアサイエンスキャンプ(JST)、トビタテ留学JAPAN(文部科学省)等を校内案内し、3名の本科学者がトビタテ留学JAPANへの応募申請準備を進めている(12月現在)。 ○2015環境研修(南ソウル大学校)学校交流プログラムの一環として高専及び高専留学制度の紹介を行った(12月実施済)。 ○国立高専機構が主催するISTS2015(マレーシア)に本科学学生1名を派遣した(8月実施済)。 ○松江高専、徳山高専と連携してニュージーランド研修を実施し本科学学生5名が参加した(8月実施済)。 ○中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアムが主催するシンガポール・サマーキャンプに本科学学生2名が参加した(8月実施済)。 ○鳥取県が主催する鳥取県・バーモント州(米国)青少年交流事業に本科学学生1名を派遣した(10月実施済)。 ○中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアムが主催する海外協定校との合同研究発表会を、昨年に続き本校協定校・南ソウル大学校(韓国)で開催し、本校本科学者がBest Presentation Awardを受賞した(11月実施済)。 ○呉高専が主催する英語キャンプに本科学学生が参加した(3月実施済)。 ○協定校・南ソウル大学校の協力を得て、第2回米子高専海外研修旅行(韓国文化体験研修)・第3回国際交流協定に基づく教職員派遣研修を実施した(3月実施済)。 ○「地域の特色を活かした日韓地域協働方式によるグローバル人材育成」研修(JASSO申請採択)を企画・計画し、昨年度海外研修旅行参加学生のステージア・アップ研修として本科学学生を派遣した(3月実施済)。 ○今年度米子高専後援会総会で国際交流基金の増資が認められた(5月実施済)。 ○国際性の涵養のため、LHRなどで国際交流員などの外国人による講演などを実施した(3月実施済)。 ○在校生の各種海外発表や海外語学研修を奨励し、Intel ISEFIに本科学学生3名が参加(5月)、ISTS 2015に本科5年生1名が参加した(8月実施済)。 ○専攻科生を対象にした海外語学研修や海外インターンシップの情報をまとめたフライヤーを学生および教員へ配布した(4月実施済)。 ○海外インターンシップ制度を周知し、参加を奨励した(4月実施済)。			達成した	国際交流 教務部 専攻科
①-2 海外インターンシップ実施 国際交流等に関する事項 ①-2 海外インターンシップ実施 国際交流等に関する事項	①-2 海外インターンシップ実施 国際交流等に関する事項 ①-2 海外インターンシップ実施 国際交流等に関する事項	○協定校・南ソウル大学校との「研修及びインターンシップに関する覚書」に基づき、長期インターンシップ受入(9月～2月)、及びJASSO奨学金による校外実習派遣(本科4年生、一週間程度)を計画した(6月)。 ○協定校・南ソウル大学校と、来年度長期インターンシップ受入及び校外実習派遣について確認した(8月)。 ○海外インターンシップの開催について学生に周知を図った(その都度実施済)。 ○機械工学科では教員や学生が国際的な会議・学会に参加し国際性の涵養に役立てた(7、9、10、11月)。 ○電気情報工学科では ・国際的な会議に教員が参加しただけでなく、学生も参加した。国際的な会議・学会等に参加する学生への資金援助が実施された。 ・英語で研究発表を行うために必要な知識や技術を身に付けさせる演習を授業に取り入れて実践している。 ○電子制御工学科では ・海外の大学との交流を継続した(9月国際工学金シンポジウムで発表、8月南ソウル大学インターンシップ学生受入れ検討)。 ・海外留学や海外インターンシップ、その他交流を希望する学生を引き続き調査した(6月～現在:学生支援室の募集を学生へ案内、10月バーモント州青年交流事業参加)。 ・海外留学や海外インターンシップ、その他交流を希望する学生が必要としている情報を調査した(12月:担任等による聞き取り:留学に伴う補助金制度などの情報が必要)。 ○Intel ISEFI(International Science and Engineering Fair) 2015に2名の学生が参加した(5月実施済)。 ○ニュージーランド研修に5名の学生が参加した(9月実施済)。 ○サマー・キャンプ in Singaporeに2名の学生が参加した(9月実施済)。 ○中国地区高専・海外協定校 合同研究発表会 in Koreaに2名の学生が参加した(11月実施済)。 ○PACIFICHEM(環太平洋国際化学会議)2015に教員3名、学生5名が参加した(12月実施済)。 ○教養教育科英語教員が韓国に出向き「日本の英語教育事情」について講演した(2月実施済)。 ○シンガポール技術英語研修に参加を予定したが、学生の都合により参加できなかった。 ○建築学科では南ソウル大学との連携などのプログラムの周知をおこない、参加学生を募った。 ○今年度米子高専後援会総会で国際交流基金の増資が認められた(5月)。	電気情報工学科:国際的 電気情報工学科:国際的 電子制御工学科:留学を 電子制御工学科:留学を 電子制御工学科:留学を 電子制御工学科:留学を	電気情報工学科:国際的 電気情報工学科:国際的 電子制御工学科:留学を 電子制御工学科:留学を 電子制御工学科:留学を 電子制御工学科:留学を	達成した	国際交流 キャリア支援室 各学科・科

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成27年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
<p>②留学生を受け入れるための整備を推進するとともに、留学生相互の交流を図る取り組みを実施する。</p> <p>留学生の受入拡大や快適な居住環境の確保のため、必要に応じた寄宿舎の整備を図る。</p> <p>国際交流活動の中で日本留学に関する広報を行う。</p> <p>学校の国際化やグローバル人材教育に資するため国際交流基金の創設・運用を図る。</p> <p>留学生教育の整備・充実に向けた検討を行う。</p> <p>留学生の受入推進及び教育環境整備を推進する。</p>	<p>②留学生を受け入れるための整備を推進するとともに、留学生相互の交流を図る取り組みを実施する。</p> <p>○交流協定締結校、国際協力機関、地方自治体と連携し行う国際交流活動の中で日本留学に関する広報を行う。</p> <p>○留学生の受入推進とその他のための教育環境整備を推進する。</p> <p>○米子高専卒業生ネットワーク(Ynct-net)を活用し、留学生OBとの情報交換を行う。</p> <p>○留学生のための地元ホスト・ファミリの実現に向け検討する。</p> <p>○留学生交流促進センターや地方自治体などが行う留学生教育の整備・充実に向けた連絡会に参加する。</p> <p>○留学生控室を整備・充実する。</p> <p>○留学生交流プログラムに参加させる。</p> <p>○女子留学生の増加に対する当該年度の整備計画を策定して整備を実施する。</p>	<p>○2015環境研修(南ソウル大学)学校交流プログラムの一環として高専及び高専留学制度の紹介を行った(12月実施済)。</p> <p>○留学生受入環境整備の一環として国際ロータリー第2690地区(鳥取・島根・岡山)の推薦を受け、ロータリー米山記念奨学金・指定校に認定された(6月)。</p> <p>○留学生の要望・勉強上の問題点を早期に把握し環境改善に生かすため、教務部・留学生の小規模交流会を実施した(4月実施済)。</p> <p>○Ynct-netの一環として留学生向けSNS(FB)を運用し、卒業留学生メンバー(27名、12月現在)を募り、在籍留学生、海外在住日本人卒業生、地元ボランティアとの情報交換に活用する。</p> <p>○地元ホスト・ファミリア実現に向け、留学生と地元ボランティア(2家族)との交流を試行した(5月・6月・9月実施済)。</p> <p>○中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアムが主催する留学生交流シンポジウムに留学生及び本科学生7名が参加した(10月実施済)。</p> <p>○留学生控室を整備・充実させた(その都度実施)。</p> <p>○江田島で行われた中国地区留学生交流シンポジウムに留学生4名を参加させた(10月実施済)。</p> <p>○留学生を公民館事業に参加させ市民交流の推進を図った(11月・12月実施済)。</p> <p>○留学生を講師として小学生対象の出前授業を実施した(9月・2月実施済)。</p> <p>○神戸大学、広島大学、鳥取大学留学生へも参加を募り、2015環境研修・新温泉町プログラムの一環として留学生地域交流プログラム(JASSO申請採択)を実施し、10名の学生が参加した(12月実施済)。</p> <p>○今年度の整備計画を策定して実施した。</p> <p>・女子留学生を受け入れて3年目。3学年がそろい人数も最大の8名となった。</p> <p>・女子留学生用の補食室・シャワー室・談話室として、ゆうぎ寮1階の療養室1室を割り当てたが、大きな問題もなく利用されている。</p>			達成した	国際交流 教務部 寮務部 事務部
<p>③ 留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行の実施を継続するほか、国際交流活動の一つとして捉え、その他の留学生に関する行事も実施する。</p>	<p>③留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行などの機会を学校の枠を越えて毎年度提供する。</p> <p>○外国人留学生の地域交流事業を企画・実施する。</p> <p>○外国人留学生研修旅行を年1回実施する。</p> <p>○留学生の要望・勉強上の問題点を早期に把握し環境改善に生かすため、教務部・留学生の小規模交流会を実施する。</p> <p>○指導教員や学生チューターを交えた留学生との情報交換会を実施する。</p>	<p>○神戸大学、広島大学、鳥取大学留学生へも参加を募り、2015環境研修・新温泉町プログラムの一環として留学生地域交流プログラム(JASSO申請採択)を実施した(12月実施済)。</p> <p>○留学生を公民館事業に参加させ市民交流の推進を図った(11月・12月実施済)。</p> <p>○留学生を講師として小学生対象の出前授業を実施した(9月・2月実施済)。</p> <p>○中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアムが主催する留学生交流シンポジウムに留学生及び本科学生が参加した(10月実施済)。</p> <p>○留学生研修旅行を実施した(3月実施済)。</p> <p>○留学生の要望・勉強上の問題点を早期に把握し環境改善に生かすため、教務部・留学生の小規模交流会を実施した(4月実施済)。</p> <p>○指導教員や学生チューターを交えた留学生との情報交換会を実施した(5月実施済。第2回目は2月実施済)。</p>			達成した	国際交流 教務部
<p>4・管理運営に関する事項</p> <p>①中期計画・年度計画の確実かつ円滑な達成を目指し、本校独自の特色ある運営が可能となるよう効果的・戦略的な資源配分を行う。</p> <p>②本校の管理運営、教育研究活動において中核的役割を担う教員を対象とした「教員研修(管理職研修)」に参加する。</p> <p>③財務に関する業務の見直しを行い、集約化・効率化を検討する。</p> <p>④教職員ひとり一人が高い倫理力を持って本校のミッションに対応できるよう、全教職員のコンプライアンス意識向上を図る。</p>	<p>①中期計画・年度計画の確実かつ円滑な達成を目指し、本校独自の特色ある運営が可能となるよう効果的・戦略的な資源配分を行う。</p> <p>○中期計画・年度計画の確実かつ円滑な達成を目指し、地域に根ざした本校独自の特色ある運営が可能となるよう効果的・戦略的な資源配分を行う。</p> <p>②本校の管理運営、教育研究活動において中核的役割を担う教員を対象とした「教員研修(管理職研修)」に参加する。</p> <p>○本校の管理運営、教育研究活動において中核的役割を担う教員を対象とした「教員研修(管理職研修)」に毎年度参加者を募り参加を促す。</p> <p>③財務に関する業務の見直しを行い、集約化・効率化を検討し、対応できるものから実施する。</p> <p>④全教職員のコンプライアンス意識向上を図る。</p> <p>○教職員ひとり一人が高い倫理力を持って本校のミッションに対応できるよう、新任教職員オリエンテーションや各種研修会・アンケートによる全教職員のコンプライアンス意識の向上を図り、公的研究費の使用または運営・管理に当たり「誓約書」の提出を義務づける。</p> <p>○新任教職員を対象としたオリエンテーション等の機会を利用して説明周知を行い、教職員の意識向上に努める。</p>	<p>○中期計画・年度計画の確実かつ円滑な達成を目指し、地域に根ざした本校独自の特色ある運営が可能となるよう効果的・戦略的な資源配分を行った(7月実施済)。</p> <p>○本校の管理運営、教育研究活動において中核的役割を担う教員を対象とした「教員研修(管理職研修)」に毎年度参加者を募り、今年度はキャリア支援室長が参加した(7月実施済)。</p> <p>○財務関係データの共有化、集約化を図り、各種調査に迅速に対応できるようにした。</p> <p>○建物の修繕等を要する現場に赴く際に併せてその周辺の安全管理状態を確認することで施設バトロールの省力化を図った。</p> <p>○教職員ひとり一人が高い倫理力を持って本校のミッションに対応できるよう、新任教職員オリエンテーションや公的研究費の使用ルール等に関する研修会(9月)を開催し、複数のアンケート実施による全教職員のコンプライアンス意識の向上を図った(4月～適宜実施済)。また、公的研究費の使用または運営・管理に当たり「誓約書」の提出を義務づける。預かり金等に関するアンケートも新規に実施した(11月実施済)。</p> <p>○新任教職員を対象としたオリエンテーション等の機会を利用して説明周知を行い、教職員のコンプライアンス意識向上に努めた(4月～実施済)。</p>			達成した	運営会議 運営会議 事務部 運営会議 事務部

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成27年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
⑤情報セキュリティに関する監査体制の充実を図る。 各監査の監査結果について、速やかに検討を行い対応する。	⑤各監査の監査結果について、速やかに検討を行い対応する。 ○年1回の独自監査を実施し、監査結果の分析検討を行い、課題解決に努める。 ○教職員の情報セキュリティに対するコンプライアンス意識の向上のために、情報セキュリティに関する研修会を積極的に開催する。 ○高専機構IT資産管理システムによる年1回のソフトウェア検査を実施する。 ○ソフトウェア及びパソコン管理体制を充実する。 ○監査結果への迅速な対応とともに期末における決算に関する検証を継続的に実施する。	○機構による情報セキュリティ監査を受審し、IS上の安全性に関しては概ね優秀であるとの評価結果が得られた(10月実施済)。 ○情報セキュリティ独自監査を実施し(12月実施済)、その結果をもとに情報セキュリティガイドを修正した(3月実施済)。 ○全教職員に対する情報セキュリティ教育(e-learning研修)を実施し、100%の教職員が受講完了した(10月～12月実施済)。 ○全国高専一斉の標的型攻撃メール訓練を実施した(12月～翌年2月実施済)。 ○ソフトウェア検査を実施した(12月～翌年1月実施済)。 ○会計検査院による決算検査報告及び会計監査人による外部監査における指摘事項又は検査概要について、本校に照らし合わせ実態確認を実施した(随時実施)。 ○H26年度から債権債務確認、物品検査等期末決算を正常化させるための日常監査のフォローアップを実施し、現在も継続している。			達成した	情報管理室 事務部
⑥「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の確実な実施を目指すとともに、必要に応じてその運用を見直す。	⑥「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の確実な実施を目指す。 ○各定期検査の実施および期末における決算の正常化を目的とした検証作業を実施する。 ○全教職員のコンプライアンス意識の向上を図り、公的研究費の使用または運営・管理に当たり「誓約書」の提出を義務づける。	○各定期検査の実施および期末における決算の正常化を目的とした検証作業を実施した(10月～適宜実施)。 ○全教職員のコンプライアンス意識の向上を図り、公的研究費の使用または運営・管理に当たり「誓約書」の提出を義務づけ、全教職員の提出を得た(回収率100%)。預かり金等に関するアンケートも新規に実施した(11月実施済)。 ○全教職員を対象に、公的研究費の使用ルール等に関する研修会を開催し、不正使用・研究費使用ルール理解度アンケートを実施した(9月実施済)。			達成した	運営会議 事務部
⑦事務職員や技術職員の能力の向上のため、機構本部や文部科学省、地方自治体等が主催する研修などに職員を積極的に参加させる。	⑦事務職員や技術職員の能力の向上のため、機構本部や文部科学省、地方自治体等が主催する研修などに職員を積極的に参加させる。 ○機構主催及び大学法人・高専等主催の研修ならびに各種講習会に参加させるとともに企業が実施する研修ならびに各種講習会へも積極的に参加させ、企業インターンシップについても検討する。 ○職務に関して特に高く評価できる成果が認められる者を高専機構職員表彰に推薦する。 ○支援センター主催のFD研修を実施する。	○機構主催及び大学法人等主催の研修に参加させるとともに、企業等が実施する講習会へも積極的に参加させた。 ○技術教育支援センターにおいて、担当校としてワークショップを取り入れた中国地区高専技術職員研修を企画・実施した(8月実施済)。 ○高専機構職員表彰については来年度申請に向けて準備中である。 ○技術教育支援センター主催の部内研修「英語によるものづくり講座」を実施した(2月実施済)。			達成した	事務部 技術教育支援センター
⑧事務職員及び技術職員の人事交流を引き続き推進する。	⑧事務職員及び技術職員に関する人事交流が円滑に行えるよう体制を整備する。 ○事務職員及び技術職員の人事交流が円滑に行えるよう体制を整備する。 ○今年度担当校である中国地区高専技術長会議において、中国地区の高専間での技術職員の人事交流等について検討する。	○事務職員及び技術職員の人事交流が円滑に行えるよう随時調整を行う。 ○27年8月に開催した中国地区高専技術支援組織長会議及び技術長会議において、中国地区の高専間での技術職員の人事交流等について検討し、人事交流の一環として授業見学の実施を進めることになった。 なお、この件については28年2月に開催された中国地区高専校長会議で承認された。また、受入側の可能な範囲で行い、経費は派遣側が支出することで承された。	人事交流の一環として技術職員による授業見学の実施を進めるにあたり、派遣に伴う費用については研修と同じように派遣側の学校の負担となる。また、中国・四国地区高専で進められている学事日程の統一となれば、授業見学の実施は難しくなる可能性がある。	近隣の高専間での授業見学を進め、また研修との兼ね合いも考え実施する。	達成した	事務部 技術教育支援センター
⑨教職員に対し情報セキュリティに関する研修会を行う。 学生に対する情報セキュリティ意識の啓蒙・強化を図る。 情報セキュリティ運営体制に関し、定期的に第3者機関による監査を実施する。 情報セキュリティ対策を適切に推進する。 高専統一システムに係る環境整備を推進する。	⑨適切な情報セキュリティ対策を推進する。 ○教職員の情報セキュリティに対するコンプライアンス意識の向上のために、情報セキュリティに関する研修会を積極的に開催する。 ○学生に対する情報セキュリティ意識の啓蒙・強化を講演会などを通じて実施する。 ○情報セキュリティ運営体制に関し、第3者機関による独自監査を原則として毎年度実施する。 ○各実施手順書を順次作成する。 ○年1回のパソコン・ソフトウェア検査を実施する。 ○平成30年度機構統一校内LAN導入に向けての準備を進める。 ○高専機構IT資産管理システムの導入を推進する。	○教職員に対し情報セキュリティに関する研修会を行いコンプライアンス意識の向上を図った(8月実施済)。 ○機構主催のISストップセミナーを受講する(7月実施済)と共に、全教職員に対するe-learning研修を実施しISに関する知識と意識の醸成に努めた(12月実施済)。 ○学生に対する情報セキュリティ意識の啓蒙・強化を新入生オリエンテーション、L・H・R.や特別講演会などを通じて実施した(4月から適宜実施済)。 ○情報セキュリティ運営体制に関し、第3者機関による独自監査を原則として毎年度実施し、その運営体制強化に役立っている(12月実施済)。 ○独自監査の結果をもとに情報セキュリティガイドを修正した(3月実施済)。 ○機構による情報セキュリティ監査を受審し、IS上の安全性に関しては概ね優秀であるとの評価結果が得られた(10月実施済)。 ○ソフトウェア検査を実施した(12月～翌年1月実施済)。 ○本校内の通信ケーブルの再敷設を完了した(3月実施済)。 ○中国地区8高専でSINET5アクセス回線共同調達をし、SINET5に移行完了した(3月実施済)。			達成した	情報セキュリティ委員会 情報管理室

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成27年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
<p>⑩機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定める。なお、その際には、学校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標を設定する。</p>	<p>⑩機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定める。 ○機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定める。 ○学校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標を検討する。</p>	<p>○機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定めた(6月実施済)。また、年度計画に対する実施状況の中間フォローアップを12月、年度末フォローアップを2～3月に、各部署・各点検部会とともに実施した(年度末実施)。 ○学校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標は、一例として科研費や外部資金獲得教員数・獲得額や特例適用専攻科認定教員数などを検討した(年度末実施)。</p>			達成した	運営会議
<p>II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 業務運営の効率化を図る観点から、更なる共同調達の推進や一般管理業務の外部委託の導入等により、一層のコスト削減を図る。 平成19年度に策定した随意契約見直し計画に基づき、一層の取り組みを推進する。</p>	<p>○今年度における機構の予算編成・配分方針に基づく効率化を踏まえ、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。 ○平成19年度に策定した随意契約見直し計画の実施状況を含む入札及び契約の適正な実施に取り組み競争性、透明性の確保を図る。</p>	<p>○原資枯渇状況であり、学内の予算配分を見直した。今後、28年度の資源配分に関し、骨格から見直しを検討した(11月～実施中)。 ○一般競争により競争性は確保し、僅少であるが資源の有効利用に努めた(随時実施済)。</p>			達成した	事務部
<p>III 予算(人件費の見積りを含む。)、収支計画及び資金計画 外部資金の獲得に努め、自己収入の増加を図る。 各種補助金への申請を奨励する。 継続的で効率的な予算配分を実施するとともに可能な限り増収方策の検討し、実施する。</p>	<p>①外部資金の獲得に努め、自己収入の増加を図る。 ○産学連携コーディネータを配置し、技術相談から共同研究・受託研究への展開を図る。 ○科研費以外の各種の補助事業に対し、シーズがマッチする教員へ申請を打診する。 ○産学連携コーディネータによる、企業向け補助金への参画支援、申請に関するアドバイスを行う。 ○継続的に自己収入の確保に努める。</p>	<p>○コーディネーターを4名採用し、振興協力会企業を中心にシーズ・ニーズマッチングを行い、共同研究5件、寄附金2件、補助金1件(受託研究等その他は該当なし)の受け入れにつなげた(その都度実施済)。 ○各種の補助事業に関する情報をメールや掲示で周知し、関連が深い教員へは直接情報提供を行った(その都度実施済)。 ○NSKメカトロニクス技術高度化財団の「教育助成」事業に応募し、採択された(11月応募、1月採択)。 ○「鳥取県環境学術研究等振興事業」「鳥取県産学共同化プロジェクト支援事業」「経産省戦略的基盤技術高度化支援事業」などの補助金申請につき、産学連携コーディネーターによるシーズ・マッチングや申請書のアドバイスなど、サポートを行った(適宜実施済)。 ○文科省の地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)で、鳥取大学を中心に県内高等教育機関が連携した「学生と社会の相互交流による人材育成・地元定着促進プログラム」が採択された。本校は参加校として参画した(6月応募、9月採択)。 ○授業料、寄宿料の未納者に対し適宜督促等を行い、収納欠損が発生しないよう対策を講じた(3月末完納)。</p>			達成した	地域共同 テクノセンター 事務部
<p>VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項 教育研究の推進や学生の福利厚生改善のために必要な施設設備の新設、改修、増設等の計画を策定する。 施設マネジメントの充実を図り、教育研究活動に対応した適切な施設の確保・活用を計画的に進める。</p>	<p>○教育研究の推進や学生の福利厚生改善のために必要な施設設備の新設、改修、増設等の計画を策定する。 ○施設マネジメントの充実を図るとともに、施設パトロールを中心に安全管理に万全を期し、必要に応じた整備を実施する。</p>	<p>○教育研究の推進や学生の福利厚生改善のために必要な施設設備の新設、改修、増設等の計画を策定し、次の工事を実施した(5月～年度末実施)。 ・第二体育館屋根改修(11月実施済)。 ・F棟他空調設備改修(翌年2～3月実施済)。 ・第一、第二体育館耐震化に向けた改修施工実施(年度末実施済)。 ○減損会計に基づく施設稼働実態は調査済み(2月)であり、今後の用途変更も含め、施設再利用(将来計画)を検討した。 ○安全管理に関する施設パトロールを毎月、定期的・継続的に実施している。</p>			達成した	運営会議 インフラ整備 検討委員会 環境マネジメント 委員会
<p>2 人事に関する計画 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。</p>	<p>○教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。 ○各学科・科に高専・高技科大間教員交流における受入希望分野および派遣候補者の推薦を依頼する。 ○各学科・科から提出された資料をもとに、運営会議や教員人事会議で受入と派遣計画を策定し、学科長会議に報告する。</p>	<p>○教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図った(4月～実施済)。 ○各学科・科に高専・高技科大間教員交流における受入希望分野および派遣候補者の推薦を依頼した(6月実施済)。 ○各学科・科から提出された資料をもとに、運営会議や教員人事会議で受入と派遣計画を策定し、学科長会議に報告した(10月実施済)。</p>			達成した	運営会議